

## 結果の概要 中学校理科

### 全体的な傾向

- 第1学年は科学的思考を除く3つの観点、第2・3学年は評価の観点すべてにおいて、昨年度よりも正答率が高くなっている。
- 1年は小学校第6学年「地球と宇宙」と2分野(1)「植物の種類と生活」、第2学年は1分野(1)「身近な物理現象」と2分野(3)「動物の生活と種類」、第3学年は1分野(3)「電流とその利用」、2分野(3)「動物の生活と種類」及び(5)「生物の細胞と生殖」の正答率が、他の内容領域の正答率と比べて高い状況にある。
- 自然現象についての知識・理解を問う問題に比べ、観察・実験の技能・表現や科学的思考に関する問題において正答率が低い状況にある。

### 1 出題のねらい

- ① 昨年度課題となった内容について、問い方等を工夫して出題した。
- ② 指導の改善状況を把握するため、昨年度までに課題となった内容について、継続して類似問題として出題した。
- ③ 昨年度までに出题されていない内容について新たに出题した（「静電気」（第3学年<sup>7</sup>）、「植物と動物の細胞のちがひ」（第3学年<sup>5</sup>））。
- ④ 植物のつくりを図で表現したり、天気記号を記述したりする問題など、自然現象についての知識・理解を多面的に把握できるよう出題方法を工夫した。

### 2 学年別結果の概要

#### 【第1学年】

内容領域	正答率
小6年 「生物とその環境」	49.9%
小6年 「物質とエネルギー」	52.9%
小6年 「地球と宇宙」	69.1%
1分野(1) 身近な物理現象	54.5%
2分野(1) 植物の生活と種類	61.8%

#### 【第2学年】

内容領域	正答率
1分野(1) 身近な物理現象	63.9%
1分野(2) 身の回りの物質	49.3%
1分野(3) 電流とその利用	47.1%
2分野(1) 植物の生活と種類	58.9%
2分野(2) 大地の変化	59.6%
2分野(3) 動物の生活と種類	78.5%

#### 【第3学年】

内容領域	正答率
1分野(3) 電流とその利用	75.8%
1分野(4) 化学変化と原子、分子	58.4%
1分野(5) 運動の規則性	58.1%
2分野(1) 植物の生活と種類	59.4%
2分野(3) 動物の生活と種類	71.6%
2分野(4) 天気とその変化	51.5%
2分野(5) 生物の細胞と生殖	64.8%

評価の観点	正答率 (%)		
	1年	2年	3年
自然現象への関心・意欲・態度	57.3	68.0	59.7
科学的な思考	52.5	61.9	58.4
観察・実験の技能・表現	57.9	53.3	56.2
自然現象についての知識・理解	60.7	58.3	65.6

### 3 今回のテスト結果からみた特徴

- 「呼吸」（第1学年<sup>1</sup>）、「地層」（第1学年<sup>3</sup>）、「動物のなかま」（第2学年<sup>17B</sup>、第3学年<sup>1</sup>）、「静電気」（第3学年<sup>7</sup>）に関する問題の正答率は、他の内容と比べて高い状況にある。
- 昨年度の類似問題との比較では、「植物のなかま」（第2学年<sup>12</sup>）、「回路と電流・電圧」（第2学年<sup>7</sup>）において、「前線付近の空気」（第3学年<sup>4</sup>）について改善がみられる。
- 昨年度正答率が低かった内容のうち、小学校6年生「血液」（第1学年<sup>2</sup>）、「水溶液の性質」（第1学年<sup>7</sup>）、「レンズのはたらき」（第1学年<sup>10</sup>）、「実験値のグラフ化」（第2学年<sup>8</sup>、第3学年<sup>11</sup>）においては、正答率が低く依然として課題がみられる。